ゆるゆるコラム

最近かたい感じの長編マガジンばかりだったので、たまにはゆる～いコラム集にしてみようと思います。

ハマるとなぜ抜け出せないのか～猫と学習理論～

「猫、昔めっちゃ好きたっだけど、最近は興味ないなー」という話を聞いたことがありません。「昔は犬派だったんだけど、猫を飼い始めてからハマってしまって抜け出せないんですねー」という話は山ほど耳にします。なぜ、人は猫に「ハマる」のか。そして、そのハマりからは決して抜け出せないのでしょうか――。

学生の頃に、心理学の授業の中で、スキナー博士の学習理論を学びました。スキナー博士は、行動の「学習と消去」について研究をしました。その結果、ある行動をとった時には必ず報酬が与えられるという「連続強化スケジュール」よりも、ある行動をとった時に報酬が与えられる時もあるし、与えられない時もあるという「間欠強化スケジュール」で行動を学習した時の方が、学習した行動の「消去」が難しいこと分かりました。ここで、教授が学生に問いかけます。「間欠強化スケジュールによって学習し、消去が難しい＝依存性が高いとされる具体例は何でしょう？――」いつ報酬が出るかわからない、どれくらいの報酬がでるかもわからない・・・・・「パチンコ！」「ギャンブル！」という声が教室から上がる中、私は一人で**「猫だーーーー！！！」と心の中で叫んでいました。**

一緒に暮らしていても、いつ甘えてくれるのか分からない。いつ面白い行動をとってくれるのかわからない、そんな猫の自由気ままな行動は、私たち人間に最も消去が難しい方法

で喜び（報酬）を与え、強く依存させているのではないでしょうか。猫にギャンブルと類似したレベルの依存性があると考えると怖いですが、色々と納得してしまいますね（笑）。

もはや人間に餌をもってこさせることが現代の猫の狩りでは。

「猫は自然界のものだから手を出してはいけない」という批判が一定あります。それはノラ猫に減ってほしくない立場の人から不妊手術に対して向けられることもありますが、大半は、ノラ猫に餌をあげている人を嫌っている人から給餌活動に対して向けられることが多い言葉です。

どこからが人間界でどこからが自然界なのか。猫がネズミのみで１日に必要な栄養を取るためには１匹の猫が１日に 6~8 匹ほど食べないといけないそうです。そんなに日本の住宅街にネズミがいるでしょうか。いませんよね、住宅街に住んでいるノラ猫は９０％以上キャットフードで生きていると思います。

農作物をネズミから守るために猫が重宝されていた時代は、狩猟能力が高い個体が好まれていました。その頃の猫の狩りは、「ネズミを捕り食べること、その褒美に肉や魚を人からもらうこと」だったのではないかと思います。

そして時は流れ、ネズミ番としての需要がなくなってきた現代は、可愛がられる顔つき、フォルム、多くの人の好みに合わせた多様な模様を身にまとうように変わることで、変わらず人に好まれています。その結果、ノラ猫であってもそのほとんどの猫が人からもらう餌に依存して生きている現状があります。そうなると、**「人に好まれ、エサをもってこさせること」こそが、現代の猫の狩りだと考えられるのではないでしょうか。**この方法になっても、やはり猫の狩猟能力は高く、猫を可愛いがれば火あぶりで死刑になるくらいの罰則があった魔女狩りの歴史を超えてきたヨーロッパでさえ、猫を可愛がる人と猫が絶えることはなかったのです。そう考えると今の日本において、「猫に餌をやるな」という張り紙だけで、猫を可愛い、可哀そうだと思い、給仕してくれる人がいなくなるわけがないのです。それは、もはや人の意志ではなく、猫の戦略でもあるからです（言い過ぎ？笑）。

このように書くと猫が人を利用する魔性の動物のように聞こえてしまうかもしれませんが、以前ある教授から、「**動物の進化とは受け身である**」と教えてもらったことがあります。猫が能動的に人に好まれるように進化してきたのではなく、人にとって好ましい個体が選ばれてきた結果、猫は今のように進化させられてきたわけです。

長い歴史の中で猫と人はお互いに自立しながらも、お互いを必要とし、利用し利用されてきた関係性を持っています。したがって、人と猫は人間界と自然界とを切り離して考えることはできないほど混ざり合った世界で生きているのではないでしょうか。と、そんなことを考えた今日この頃でした。

信楽焼を求めて

以前、ノラ猫さんの TNR のお手伝いをする仕事でお邪魔した現場で、とっても印象に残る出来事がありました。こちらの写真をご覧ください。

隣にとっても飲みやすそうなバケツのお水があるのに、めちゃくちゃ飲みにくそうな大きな器からゴクゴクお水を飲む猫さん。不思議すぎて写真を撮っていると、依頼主さんが「大きな器は信楽焼なんです。信楽焼に入るとお水が美味しくなるみたいで、皆んなこっちから飲むんですよ。」と教えてくれました。水の味が変わる信楽焼もすごいし、味の違いがわかる猫さんたちもすごいです。

お水を沢山飲んでもらうことは猫の健康を保つ上で大切なことです。このお話を聞いて、どや顔の猫さんを見てからどうしても自分の家の猫たちの水皿に信楽焼が欲しくなりました。お休みの日に、滋賀県信楽まで信楽焼を買いに行ってきました！

２件のお店を回る中で、店員さんが先ほどの写真を見て教えてくれたのですが、写真の猫さんが飲んでいる信楽焼は、信楽焼の中でも「焼締め」と言って、釉薬というガラスなどの塗料を上からかけることをせず、高温で焼成した陶器だそうです。めちゃくちゃ小さい穴が沢山空いていて、ビールが美味しくなったり、水が腐敗しにくくなるといったことがあるそうです。

家の猫の飲み水ポイントは３カ所あるので、気に入ったお皿を奮発して３つ購入しました。確かによく飲んでくれるようになった気がします。気持ちの問題かもしれませんが（笑）。信楽まで行く高速代もそこそこかかるし、器もそれ相応の金額がします。それでも、買ってきた信楽焼のお皿で猫がゴクゴクお水を飲んでくれている姿を見て、なんともいえない満足感と幸福感に包まれている私も、例にもれず猫にハマっている人間の一人なんだなぁと実感しました。笑

おわり

小池英梨子
NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク
「人もねこも一緒に支援プロジェクト」　プロジェクト代表
仕事：猫専門のお手伝い屋さん「ねこから目線。」として開業。